

知識は実生活に活かしてこそ、知恵となる

昨年授業した学生から嬉しいメール（抜粋）が届いた。

【 実習中に地元の病院の採用試験を受けましたが、小論文で「コミュニケーションで大切なこと」という出題がありました。

先生に教えていただいたことをもとに、受信発信をつなげていくこと（螺旋的コミュニケーション）の大切さを自分の言葉で書くことができました。

地元では大きな総合病院ですが、内定をいただくことができ、国試に合格すれば4月からお仕事をさせていただくことになります。

病院実習でのたくさん出会った患者様から、思ったことを思ったように話せないことがどんなに苦しいかということを考えさせられました。

「寄り添う」ことがいかに大切か、患者様からたくさん教えていただきました。

また、ご家族の方たちの思いを受け止めることも自分たちの仕事のひとつであることが実感できました。

言葉を扱う仕事であるからこそ、コミュニケーションを大事にしたいし、声にならないことばにもきちんと耳を傾け、寄り添っていかなければならないと思いました。

病気になり不安な時、介護で大変な時、思うようにならなくて悔しい時… みんな話を聞いてほしい、自分を受け止めてほしいと願っていると思います。

そんな思いを安心して話してもらえるようなSTでありたいと思います。】

授業で話したことが少しは就職試験のお役に立ったようで、こうして就職内定の報告をわざわざもらうと、やはり嬉しいもの、(^_^)~

後は、国試に向かって頑張り！ 来春の国試合格報告の嬉しいメールを待ってまあ〜す！

さて、授業で話したコミュニケーションの本質を、単なる知識としてでなく自らの実生活に活かし、かつ、こうまで簡潔に文章化できる程に自分のものにしてくと、話し甲斐があったというもので、これも嬉しいこと、(^_^)~